偏側腎缺損症に就て

國立岩國病院皮膚科泌尿器科 田 邊 澄

Aplasia renis unilateralis

Sumi Tanabe

(I) 緒 言

人體の諸系統の中でも泌尿生殖系統は比較的先天性異常に富む所である。其の中で腎臓及び輸尿管の先天性異常はX線に依る腎盂輸尿管撮影法の發表せられるまでは、非常に稀有な疾患として偶然に病理解剖學者に發見され、又手術の副所見として昔の泌尿器科醫や外科醫を驚嘆せしめた疾患であつた。就中偏側腎缺如を事前に豫知し得なかつたため手術により不幸な轉歸を取つた例も少なくなかつたのである。然し腎盂撮影術が容易に行われる今日では、生體內に於ても明瞭に之を知り得るのであるが、未だ腎盂結核等と誤診された報告例も少なくないのである。私も最近偶然の機會に完全な腎缺損症の1例を経験したので此處に報告し、併せて本症に關する文獻的考察を加え諸賢の御批判を仰ぎたいと考える次第である。

(II) 自家症例

患者：村井某男、46歳、主訴：全排尿痛、尿渾濁、尿意頻數及び殘尿感、家族歴には特記事項なく既往歴に於て約10年前に淋菌性尿道炎に罹患當時軍隊で約2カ月間治療を受け治癒したと言う。

現病歴：約3カ月前、飲酒後尿線無力となり排尿時間が延長した事があつたが介意せず放置していた所、約40日前より下腹部の不快感、排尿終末痛、尿意頻數を來したので地方醫により治療を受けるも輕快せず當科を訪れたものである。

現症：患者は體格榮養中等度で胸部腹部臟器には全く異常を認めぬ。微毒血清反應ワ氏、村田氏、カーン氏何れも陰性、マントウは中等度陽性。

型の如く兩腎の觸診を行うに、右腎下極を明瞭に觸れ、表面平滑、硬度正常、呼吸性移動も亦全く正常に保たれている。左腎は全然觸知し得ず兩

側輸尿管走行並に腸骨窩にも抵抗、壓痛なく、膀胱部も亦異常を認めぬ。外尿道口、會陰部も正常であるが、左側副睪丸尾部は豌豆大で纖維性硬なるも壓痛なく、輸精管は正常である。前立腺を觸診するに左葉稍と肥大し、硬度も幾分増しているが壓痛は認められない。

尿は微濁、莖黃色、酸性、鏡檢すると少數の多核、單核白血球と移行型上皮細胞以外は所見を認めない。

膀胱鏡所見：膀胱容量、350cc、右側輸尿管口は正常位にあり其形點狀をなし、收縮力可良であるが左側輸尿管口は缺如し從つて膀胱三角も不完全で左脚は消失している。尙輕度の前立腺左葉の肥大を認め膀胱頸部に僅かな充血と毛細血管の怒張を認める他膀胱粘膜には著變は見られない、(第1圖)

なお殘尿 20cc を證明し、尿道の全長 19cm であつた。

著色膀胱鏡所見：1% インジゴカルミン溶液(第一製藥) 5cc を靜脈内注射を行うと、右側輸尿管口よりは初發 5' 57'', 7' 7'' にて濃青となるも、左側壁よりは20分觀察するも全く排泄を見ず。

以上の所見から前立腺肥大症第II度、左慢性淋菌性副睪丸炎の他に左側腎缺損症の疑が持たれたのでスギウロンによる排泄性腎盂撮影法を施行した所、右腎よりは正常な排泄を見、腎盂腎盞は稍と擴張し、輕度の代償性肥大の像が見られるが、左腎よりの排泄は全く認められない。又腎臓の輪廓も證明されない故、酸素約300ccを注入して左側のPneumorenを行い同時に右は15%のヨードナトリウムによる逆行性腎盂撮影を行つた所、全

腎盂陰影の肥大を認めたが右腎盂及び尿管には著變なく、又左腎像は得られなかつた。即ち左腎は完全に缺如していると考えられるに到つた。

尙フェノールズルフオンフタレーン試験を行うに、15'で35%、30'で25%、60'で20%で計80%の排泄があり右腎機能は正常である事が明かとなつた。

〔III〕 總括並に考按

偏側腎缺損症は病理解剖學者により既に古くからその記載が見られ、其の名稱も種々であつた。Ballowitz は 1895 年迄の文獻から 213 を集めて居り、其の後 Hugo Naumann は 1897 年に 14 例を、Chistian Bäumler は 1913 年に 36 例を追加報告しているが、Lichtenberg 等により本症が初めて明瞭に系統立てられたのである。本邦に於ても昭和 21 年の永田氏の報告までに 29 例の本症の報告が見られる。

(I) 發現率：G. B. Gruber 氏の記載を引用すれば第 I 表に示す如く、諸家によつて區々である。之は特に 1 萬以上の症例を集めたもののみの表であるが、少數例の報告も併せると發現率は一層まちまちである。

本邦では岡山醫大病理學教室の藤浪氏の報告に據れば 737 剖検例中 2 例 (0.27%) であり又土屋氏の記載によると膀胱鏡検査 1500 名に 1 例位の割合に見られるものであると言う。以上の如く諸家の統計も全く區々であるが之を平均すれば第 1 表にも見られる如く 0.1% 前後で大體 1000 人に 1 人と言う割合となる。

(II) 性別：外國の文獻上に現われた諸家の報告に就て見るに、第 1 表に示した如くで Ballowitz は ♂ : ♀ の比は 112 : 65, Guisetti & Pariset は 27 : 12, Genard は 122 : 93, O. Banner は 26 : 13 等の數字を擧げている。私の本邦文獻中より集めた例に於ては ♂ : ♀ は 15 : 4 であり、凡ての報告例に於て男性が壓倒的に多數を占めている。

(III) 左右別：之も第 1 表で見られる如く、左側に多いとの報告が多いようであるが、然しその逆の統計もある。本邦に於ける報告を見るに、左

8 例、右 8 例、不明 3 例で、左右略々同率に現れている。之は腎臓が對稱性臓器である點を考えると當然の事と思われる。

(IV) 他臓器の畸形との關係：偏側腎缺損症は比較的多く他臓器の畸形を合併するものであり、特に泌尿生殖器の畸形が多いとされているが、泌尿生殖器以外の畸形も可成見られるものである。

合併畸形中主なものをあげると、他側の多發性腎囊腫、同側の輸尿管缺如又は發育不全、他側の腎水腫、他側重複輸尿管、變位腎、同側又は稀には他側輸尿管開口異常(射精管、精囊、輸精管、子宮、喇叭管、腔、女性外陰部)。同側の生殖器又は附屬器の缺損又は發育不全、膀胱憩室、其の他種々なる外陰部畸形がある。就中生殖器異常が多く、Ballowitz は 1894 年の 213 例の報告中生殖器發育異常を認めたもの 73 例を記載している。又 Rokitanski は 35 例中、單角子宮 6、雙室子宮 8 二重中隔雙室子宮 11 例を報告して居り、Beumer は 48 例中、生殖器發育異常を 13 例發見したと報告している。

又同側輸尿管の状態に就てには Genard は次の 5 つが存在すると言つている。

- (1) 膀胱内輸尿管口に一致して單一豌豆大の憩室の存在 (Weichselbaum)
- (2) 膀胱三角部に輸尿管の單一盲囊の存在 (Rayer)
- (3) 輸尿管上部の缺如 (Paulicki)
- (4) 輸尿管は盲管として膀胱部及び骨盤部のみに存在する (Bust).
- (5) 輸尿管は全長存在するが、上端が盲端をなす。(Titius)

以上の如く同側輸尿管の状態も全く缺如しているものから、殆んど全長の存在するものまで種々である。

膀胱の状態は一側の輸尿管口の缺如する場合は膀胱三角は不完全となる。然し一側の輸尿管口の缺如を以て、同側の腎缺如は斷定出来ない。又逆に兩側輸尿管口は存在していても前述の如くその上端が盲端をなし腎臓缺如する場合がある。結局膀胱鏡では腎缺損か或は發育不全が存在すると言

う事は解るが、その何れかと言う事は断定出来ない。

泌尿生殖器以外の畸形合併も稀に報告されて居るが、本邦文獻上では、副腎缺如、鎖肛、Hackenfuss, Lumbarisation 十二指腸憩室等が見られる。

〔IV〕 結 語

(1) 私は偏側腎缺損症の1例を報告すると共に、本邦文獻上に現われた本症に關し考察を行つた。

(2) 本症例は膀胱鏡検査に於て、左側輸尿管口は缺如し、スギウロンによつても腎盂像は得られず、スプノイモーレンに依つても腎臓の影像を発見する事は出来なかつた。然し完全缺如であるか否かは手術的に確められていない。

(3) 姉妹腎のレントゲン像は軽度の腎肥大と軽度の腎盂腎盞の擴張を示している。

(4) 診斷には諸種の泌尿器科的診斷法は行う事は勿論であるが、特にプノイモーレンを行う事が推賞さる可きである。

終に臨み恩師根岸教授の御指導並に御校閲に對し萬腔の謝意を表する。

主要文獻

- 1) G. B. Gruber, Handbuch d. Urol Bd III. —2) Gottlieb, Zschr, Bd. 22 1928. —3) Ballowitz, Virch. Arch. Bd 141. —4) Lichtenberg, Zschr. Urol. Chirug 1913. —5) 土屋, 小林: 皮泌誌 37, 2號 —6) 大森: 治療及び處方 24 卷 2 冊. —7) 永田 鶴町: 日泌尿會誌 37 卷 2, 3, 4. —8) 岩下, 岡: 日泌尿會誌 32 卷

第 1 表

報 告 者	剖檢數	症例數	發現率
Naumann	10177	14	0.137%
Brown Macdonald	12000	3	0.024%
Guizetti & Pariset	20000	39	0.195%
Desiderius Engel	12300	16	0.13 %
Heiner	10998	5	0.045%
Scheuer	11000	3	0.027%
Thompson	13000	32	0.246%
Winter	32415	13	0.04 %
	121890	125	0.102%

第 2 表

報 告 者	♂	♀	左	右
Ballowitz	112 :	65	117 :	88
Winter	2 :	1		
Guizetti & Pariset	27 :	12	26 :	13
Génard	122 :	93	136 :	96
Aesiderius Enger	13 :	3	10 :	6
Gruber	4 :	1	1 :	4
O. Bauner	26 :	13	19 :	25
	428 :	282	445 :	328

第 1 圖